

ジョン・メイスフィールド

9 海洋熱

再びあの大海原へ行かなきゃならん あの寂しい海と空の世界へ
俺が望むのは 背の高い船一艘と導しるべとなる北極星
舵から伝わるあの手応えと風の歌 白帆のはためき
水面に立つ薄暗い水煙と 白みゆく夜明けだけさ

再びあの大海原へ行かなきゃならん 打ち寄せる潮の音ねが呼ぶ 5
そいつが耳にこびりついてとても抗えそうにはねえ
俺が望むのは 白い雲が流れ 風が吹き荒すさぶ一日
舞い上がる水飛沫しぶきと吹き散る波の花 響き渡るカモメの鳴き声だけさ

再びあの大海原へ行かなきゃならん あの流浪のジブシーの生活へ
カモメや鯨がいるところへ 風はナイフのように突き刺さるがな 10
俺が望むのは 笑いあえる道連れの面白れえ与太話に
長い任務トリックが終わった後の静かな眠りと穏やか夢だけさ

(三木菜緒美訳)